

授業科目	リハビリテーション総論		担当教員	森泉 茂宏	
対象年次・学期	1 年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数
授業目的	リハビリテーション医学の概念と各障害に対するリハビリテーションおよび疾患別のリハビリテーションについて学ぶ。				
到達目標	包括的なリハビリテーション領域における理学療法士としての役割を理解する。				
テキスト・参考図書等	最新リハビリテーション医学 第2版 リハビリテーション総論				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	定期試験により評価。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項	リハビリテーション領域全体の中での理学療法、作業療法、言語聴覚療法の位置づけと役割を学びます。また、障害者の自立支援や就労支援における現状と課題、理学療法、作業療法の役割について学びます。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	リハビリテーションとは	リハビリテーションの定義と歴史、リハビリテーションの起源から地域包括ケアへ		
	2	障害の病態生理と評価	障害の分類と評価		
	3	チーム医療	リハビリテーション医療の特性		
	4	リハビリテーション治療	リハビリテーション評価と方法		
	5	理学療法と作業療法	各役割と特徴		
	6	疾患と機能障害①	脳血管障害		
	7	疾患と機能障害②	運動器疾患		
	8	疾患と機能障害③	変性疾患、神経・筋疾患		
	9	保健・医療・福祉の連携	リハビリテーション医療と地域包括ケア 障害者の自立支援と就労支援（障害者総合支援法と職業リハビリテーション）		
	10	リハビリテーション工学	リハビリテーション工学の成り立ちと現状		
	11	リハビリテーションと言語聴覚療法	リハビリテーション医療における言語聴覚療法		
	12	身体障がい当事者から見たリハビリテーション	サービスの受け手である障がい当事者本人にとってのリハビリテーションの意味		
	13	多職種連携の基礎と各職種の専門性	リハビリテーションの定義と、現代医療における多職種連携の必要性。		
	14	多職種連携における、対象者を多角的に捉える視点を持つ	看護（生活の24時間管理）、PT（粗大運動・基本動作）、OT（応用動作・作業・精神）、ST（摂食嚥下・高次脳・言語）、社福（制度・環境調整・退院支援）の役割を再定義。		
	15	多職種連携における、対象者を多角的に捉える視点を持つ	看護（生活の24時間管理）、PT（粗大運動・基本動作）、OT（応用動作・作業・精神）、ST（摂食嚥下・高次脳・言語）、社福（制度・環境調整・退院支援）の役割を再定義。		

授業科目	リハビリテーション総論	担当 教員 実務 経験	森泉茂宏 有：■ 無：□	整形外科・リハビリテーション科 医師として大学病院、リハビリテ ーション病院等にて勤務。医科大 学において臨床教員としても 10 年のキャリアを有する。
対象年次・学期	1 年・通年	担当 教員	竹中謙将	道内の病院で 10 年、老人保健施 設で 7 年、理学療法士として勤 務
授業形態		実務 経験	有：■ 無：□	
		担当 教員 実務 経験	武田祐貴 有：■ 無：□	市内脳神経外科病院にて理学療 法士として 12 年間勤務
		担当 教員 実務 経験	和田英峰 有：■ 無：□	市内病院にて作業療法士として 8 年勤務
		担当 教員 実務 経験	有本邦洋 有：■ 無：□	道外医療施設にて理学療法士と して 6 年勤務
		担当 教員 実務 経験	埜瀬充功 有：■ 無：□	
		担当 教員 実務 経験	石野洋祐 有：■ 無：□	市内病院にて理学療法士として 12 年勤務
		担当 教員 実務 経験	今野靖士 有：□ 無：■	頸髄損傷者当事者
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

授業科目	運動学		担当教員	元木 純	
対象年次・学期	1 年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	23 回	時間数
授業目的	理学療法士、作業療法士は対象者の運動、動作、活動を観察・分析して治療に繋げる。この科目では、そのために必要な人間の正常な運動のメカニズムを理解することが目的である。				
到達目標	・ 運動に関する原理・原則など、基本的事項を理解し説明できる。 ・ 人間の運動の基礎となる、身体の構造と機能を理解し説明できる。 ・ 各関節運動の特徴や、運動に作用する筋について説明できる。				
テキスト・参考図書等	基礎運動学 第 7 版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	定期試験により評価。		
	レポート				
	小テスト				
	提出物				
	その他				
履修上の留意事項	人間の運動がなぜ、どのように起こるかを学び、理学療法・作業療法の土台となる学問である。履修する範囲が広域ですし力学や解剖学の基礎的知識が不可欠なので、予習、復習を十分に行なうこと。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	運動学の基礎	オリエンテーション、運動学の概念について学習する		
	2	運動学の基礎	オリエンテーション、運動学の概念について学習する		
	3	機能解剖：足	足関節の構造と機能について学習する		
	4	機能解剖：足	足関節の構造と機能について学習する		
	5	機能解剖：膝関節	膝関節の構造と機能について学習する		
	6	機能解剖：膝関節	膝関節の構造と機能について学習する		
	7	機能解剖：膝関節	膝関節の構造と機能について学習する		
	8	機能解剖：膝関節	膝関節の構造と機能について学習する		
	9	機能解剖：股関節	股関節の構造と機能について学習する		
	10	機能解剖：股関節	股関節の構造と機能について学習する		
	11	機能解剖：股関節	股関節の構造と機能について学習する		
	12	機能解剖：股関節	股関節の構造と機能について学習する		
	13	機能解剖：肩関節	肩関節の構造と機能について学習する		
	14	機能解剖：肩関節	肩関節の構造と機能について学習する		
	15	機能解剖：肩関節	肩関節の構造と機能について学習する		
	16	機能解剖：肩関節	肩関節の構造と機能について学習する		
	17	機能解剖：肘関節	肘関節の構造と機能について学習する		
	18	機能解剖：肘関節	肘関節の構造と機能について学習する		
	19	機能解剖：手	手関節の構造と機能について学習する		
	20	機能解剖：手	手関節の構造と機能について学習する		
	21	機能解剖：体幹	体幹の構造と機能について学習する		
	22	機能解剖：体幹	体幹の構造と機能について学習する		
	23	姿勢・歩行	姿勢と正常歩行のメカニズムについて学習する		

授業科目	運動学	担当 教員 実務 経験	吉田香織 有：■ 無：□	道内の総合病院に理学療法士として 10 年以上勤務
対象年次・学期	1 年 ・ 後期	担当 教員	目黒文彦 有：■ 無：□	道内医療機関にて作業療法士として 14 年勤務
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験	元木 純 有：■ 無：□	市内整形外科病院にて理学療法士として 18 年間勤務
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

授業科目	解剖学Ⅰ		担当教員	飯島 治之	
対象年次・学期	1 年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数		時間数
授業目的	・生物としての代謝と動物としての運動のための人体の構造を系統的に学び理解することを目的とする。				
到達目標	・理学療法士・作業療法士にとって重要である運動器系としての骨・関節・靱帯・筋およびその詳細について学習し、基礎的知識を身につける。 ・基本的な解剖学の名称と各器官の関連性、および人体に於ける 3 次元的な位置関係について理解する。				
テキスト・参考図書等	カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで 筋学ハンドブック				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	中間試験、前期試験を実施し、合計点が 120 点未満の者には再試験を実施する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項	・学習する範囲・量が膨大なので、講義を集中して受け予習・復習を怠らないこと（怠ると他の科目にも影響します）。私語は慎むこと。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	解剖学概論	解剖学用語、身体各部の名称		
	2	骨学概論	骨の種類、組成、基本構造		
	3	頭蓋骨 1・2	脳頭蓋、顔面骨		
	4	頭蓋骨 1・2	脳頭蓋、顔面骨		
	5	脊柱	椎骨		
	6	胸郭	胸骨、肋骨		
	7	上肢 1・2	上肢帯、上腕骨、前腕、手の骨		
	8	上肢 1・2	上肢帯、上腕骨、前腕、手の骨		
	9	下肢 1・2	下肢帯、大腿骨、下腿、足の骨		
	10	下肢 1・2	下肢帯、大腿骨、下腿、足の骨		
	11	上肢の関節	肩、肘、手の関節		
	12	下肢の関節、（中間試験）	股、膝、足の関節		
	13	筋学概論	筋の種類		
	14	頭部の筋	表情筋、咀嚼筋		
	15	頸部の筋	浅頸筋、舌骨筋群		
	16	胸部の筋	浅胸筋、呼吸筋		
	17	腹部の筋	腹筋、横隔膜		
	18	背部の筋	浅背筋、固有背筋		
	19	上肢の筋 1・2	上肢帯筋、上腕筋、前腕筋、手の筋		
	20	上肢の筋 1・2	上肢帯筋、上腕筋、前腕筋、手の筋		
	21	下肢の筋 1～3、（前期試験）	下肢帯筋、大腿筋、下腿筋、足の筋		
22	下肢の筋 1～3、（前期試験）	下肢帯筋、大腿筋、下腿筋、足の筋			

	23	下肢の筋 1～3、(前期試験)	下肢帯筋、大腿筋、下腿筋、足の筋
--	----	-----------------	------------------

[illegible]

授業科目	解剖学Ⅱ		担当教員	松村 博文	
対象年次・学期	1 年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態	講義		授業回数		時間数
授業目的	・生物としての代謝と動物としての運動のための人体の構造を系統的に学び理解することを目的とする。				
到達目標	・具体的には感覚器、消化器、呼吸器、泌尿器、循環器、神経系、内分泌器について学習し、基本的な解剖学の名称と器官の関連性について理解する。				
テキスト・参考図書等	カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	・前期試験・後期試験のどちらにも合格すること。 ・試験は 100 点満点中 60 点以上を合格とする。 ・本試験不合格の物に対し、再試験を実施し 60 点以上を合格とする。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項	学習する範囲が広範なので、何度も反復して理解を深めること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	循環器	心臓の位置と構造		
	2	循環器	心臓の内部構造		
	3	循環器	体循環と肺循環		
	4	呼吸器	呼吸経路の全体像		
	5	呼吸器	気道と肺の構造		
	6	内臓学総論、消化器	腹膜、口腔		
	7	消化器	食道、胃、小腸		
	8	消化器	大腸、膵臓、肝臓		
	9	泌尿器	泌尿器		
	10	泌尿器	男性生殖器		
	11	泌尿器	女性生殖器		
	12	末梢神経	末梢神経系		
	13	末梢神経	末梢神経系		
	14	感覚器	感覚器（視覚器、平衡聴覚器）		
	15	感覚器	感覚器（視覚器、平衡聴覚器）		
	16	組織（1）	人体の組織と発生		
	17	組織（2）	骨・筋		
	18	組織（3）	神経組織		
	19	中枢神経（1）	神経の変性と再生		
	20	中枢神経（2）	脳の発生		
	21	中枢神経（3）	脊髄		
	22	中枢神経（4）	脊髄		
	23	中枢神経（5）	脳神経		

	24	中枢神経（6）	脳幹
	25	中枢神経（7）	脳幹
	26	中枢神経（8）	小脳
	27	中枢神経（9）	間脳
	28	中枢神経（10）	大脳皮質
	29	中枢神経（11）	大脳髄質・基底核
	30	中枢神経（12）	神経路

[illegible]

授業科目	基礎作業学		担当教員	和田 英峰	
対象年次・学期	1 年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数
					30 時間
授業目的	作業療法の基礎となる作業と人間の関係について理解を深める				
到達目標	①人間にとって作業はどんな意味があるか説明できる ②作業と作業療法の関係を説明できる ③作業の治療的応用について説明できる				
テキスト・参考図書等	山根寛：ひとと作業・作業活動 新版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	90	定期試験は前期・後期の 2 回に分けて行う。 前期定期試験は 80 点満点 + 提出物 20 点、後期定期試験は 100 点満点を合計し、各期 100 点満点の合計 200 点の平均で評価する。 提出物点は提出物の提出状況及び内容により算定する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	10			
	その他	0			
履修上の留意事項	授業では提出課題を利用することが多いので、期日までに作成し提出することを求める。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	序論	授業オリエンテーション・作業の定義		
	2	作業と生活 (1)	作業の分類・生活と作業		
	3	作業と生活 (2)	ライフスタイル分析 (1) 自分の生活を振り返る		
	4	作業と生活 (3)	ライフスタイル分析 (2) 自分の目標に沿って生活の質を高める。(COPM 体験)		
	5	作業と生活 (4)	ライフサイクル分析 (1) 各発達段階における生活の変化・課題の変化		
	6	作業と生活 (5)	作業歴 相手の人生についての語りを聴く		
	7	作業と生活 (6)	人間作業モデル 意志・習慣化・遂行・環境のサブシステム 作業遂行障害		
	8	作業と生活 (7)	ライフサイクル分析 (2) 社会心理発達理論 作業の変遷		
	9	人間と作業 (1)	脳と作業 (1) 脳の発達と作業の関係		
	10	人間と作業 (2)	脳と作業 (2) 脳の発達と再生 脳のリハビリテーション		
	11	人間と作業 (3)	手・からだ・こころと作業		
	12	人間と作業 (4)	学習・コミュニケーションと作業		
	13	作業の治療的利用 (1)	作業の知・作業のクオリア		
	14	作業の治療的利用 (2)	作業の治療的利用・作業の技・技を育む (1)		
	15	作業の治療的利用 (3)	作業の治療的利用・作業の技・技を育む (2)		

[illegible]

授業科目	基礎作業学実習Ⅰ		担当教員	池田 保	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必須	単位数
授業形態			授業回数		時間数
授業目的	・作業の工程を理解し、道具と材料を知る。 ・自分の体験したことをもとに、包括的作業分析を行う。 ・作業分析を通じて、作業特徴の把握、必要な能力、治療的利用の方法と指導援助方法を検討する。				
到達目標	包括的作業分析ができる。作業の要素について比較ができる。				
テキスト・参考図書等	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト2 作業学、ひとと作業・作業活動				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	提出物による課題点とその他（作品点）にて評定する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	65			
	その他	35			
履修上の留意事項	さまざまな作業体験をしながら、作業道具・作業工程・治療目的などを比較分析していく。提出期限を厳守すること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション・塗り絵	授業オリエンテーション・作業分析、・簡易型分析表の書き方		
	2	レクリエーション（室内ゲーム）	レクリエーションオリエンテーション・ボードゲームの体験（個人/ペアによる対戦・協力）・分析表の作成		
	3	レクリエーション	4年生企画 合同レクの参加（小集団ゲーム体験）		
	4	レクリエーション	4年生企画 合同レクの参加（小集団ゲーム体験）		
	5	ちぎり絵①	色紙絵作成（投影的作業の体験）		
	6	ちぎり絵②	構成的作業と投影的作業の比較		
	7	ちぎり絵③	構成的作業と投影的作業の比較		
	8	ネット手芸①	ネット手芸オリエンテーション・ミニカードケースづくり		
	9	ネット手芸②	ミニカードケースづくり		
	10	ネット手芸③	ミニカードケースづくり		
	11	ネット手芸④	ミニカードケースづくり		
	12	ネット手芸⑤	ミニカードケースづくり		
	13	籐細工①	籐細工オリエンテーション・コースター作り		
	14	籐細工②	コースター作り		
	15	籐細工③	丸かご作り		
	16	籐細工④	丸かご作り		
	17	籐細工⑤	丸かご作り		
	18	籐細工⑥	丸かご作り		
	19	革細工①	基本的工程と技法、用具素材の特性・治療的応用、ペントレイ・キーケースづくり		
	20	革細工②	基本的工程と技法、用具素材の特性・治療的応用、ペントレイ・キーケースづくり		
	21	革細工③	基本的工程と技法、用具素材の特性・治療的応用、ペントレイ・キーケースづくり		

	22	革細工④	基本的工程と技法、用具素材の特性・治療的応用、ペントレイ・キーケースづくり
	23	革細工⑤	基本的工程と技法、用具素材の特性・治療的応用、ペントレイ・キーケースづくり
	24	革細工⑥	基本的工程と技法、用具素材の特性・治療的応用、ペントレイ・キーケースづくり
	25	陶芸①	基本的工程と技法 用具素材の特性、治療的応用、茶碗〔たまづくり〕・皿・花瓶〔板づくり〕、マグカップ〔ひも作り〕 ろくろ作り体験
	26	陶芸②	基本的工程と技法 用具素材の特性、治療的応用、茶碗〔たまづくり〕・皿・花瓶〔板づくり〕、マグカップ〔ひも作り〕 ろくろ作り体験
	27	陶芸③	基本的工程と技法 用具素材の特性、治療的応用、茶碗〔たまづくり〕・皿・花瓶〔板づくり〕、マグカップ〔ひも作り〕 ろくろ作り体験
	28	陶芸④	基本的工程と技法 用具素材の特性、治療的応用、茶碗〔たまづくり〕・皿・花瓶〔板づくり〕、マグカップ〔ひも作り〕 ろくろ作り体験
	29	陶芸⑤	基本的工程と技法 用具素材の特性、治療的応用、茶碗〔たまづくり〕・皿・花瓶〔板づくり〕、マグカップ〔ひも作り〕 ろくろ作り体験
	30	陶芸⑥	基本的工程と技法 用具素材の特性、治療的応用、茶碗〔たまづくり〕・皿・花瓶〔板づくり〕、マグカップ〔ひも作り〕 ろくろ作り体験

[illegible]

授業科目	作業療法概論		担当教員	目黒 文彦	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必須	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数
授業目的	皆さんがこれからなろうとしている作業療法士について知ると共に作業療法について学びます。授業を通して、将来、作業療法士になるために必要な基礎的知識の獲得を目指します。				
到達目標	作業療法に必要な基礎的知識を習得する。作業療法の対象分野・対象者、その目的や目指すところを理解し、説明できるようになる。				
テキスト・参考図書等	作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 作業療法学概論				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	前・後期定期試験		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項	将来、作業療法士になる上で土台となる重要な科目です。積極的に参加してください。教員自己紹介や施設見学については提出課題があります。期限内の提出を確実に出来るよう、課題には計画的に取り組むようにしてください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	科目の説明、教員・学生自己紹介		
	2	作業療法とは何か①	作業療法の定義や作業療法の対象、臨床分野など作業療法や作業療法士に関する基本的な事柄を知る。		
	3	作業療法とは何か②	作業療法の定義や作業療法の対象、臨床分野など作業療法や作業療法士に関する基本的な事柄を知る。		
	4	障害構造と生活機能分類	ICIDH-2とICF		
	5	標本館見学	札幌医科大学標本館の見学		
	6	作業療法の歴史①	作業療法の始まり、世界・日本における作業療法の歴史を知る。		
	7	作業療法の歴史②	作業療法の始まり、世界・日本における作業療法の歴史を知る。		
	8	医療・保健・福祉をささえる仕組みと作業療法の位置づけ	社会保障制度とその中に位置づけられる作業療法に対する理解を深める。		
	9	当事者の視点から見たリハビリテーションと、未来のセラピストに望むこと	障がい当事者が体験してきた事、未来のセラピストへの期待を直接聞くことにより 当事者本人の視点を持つことの重要性を学ぶ		
	10	作業療法の臨床分野	各分野の施設見学に先立って、身体障がい、精神障がい、発達障がいの各分野で展開されている作業療法の特徴を知る。		
	11	施設見学①	作業療法士が働く施設や臨床場面の見学、(①身体障害分野、②精神障害分野、③発達障害分野)		
	12	施設見学②	作業療法士が働く施設や臨床場面の見学、(①身体障害分野、②精神障害分野、③発達障害分野)		
	13	施設見学③	作業療法士が働く施設や臨床場面の見学、(①身体障害分野、②精神障害分野、③発達障害分野)		
	14	臨床実習報告聴講	臨床実習Ⅱの実習報告を聴講し、疑問点をまとめる		
15	まとめ	科目全体を振り返り、疑問点の整理を行う			

[illegible]

授業科目	自然科学		担当教員	近江谷 和彦	
対象年次・学期	1 年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数
授業目的	【生物学】他の科目の参考となるよう、DNA から生態系まで、生物学の基本的な知識を学ぶ。 【物理学】私たちの生活には物理学により説明できる事象が沢山あり、携帯電話をはじめとする物理学を応用した機器も多い。また、介護・医療の現場でも物理学に基づいた考えは欠くことができない。この授業では、物理学の基礎を学び、理解し、それぞれの分野で私たちの生活、介護・医療との関連性を考える。				
到達目標	【生物学】DNA から生態系までの、生物学の基本的な知識について説明できる。 【物理学】数式を理解し、物理量の計算ができるようにする。				
テキスト・参考図書等	系統看護学講座 基礎分野 生物学 第9 版 まるわかり！基礎物理 2011 年				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	・定期試験を評価 ・各領域でそれぞれ6割以上を合格とする		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項	前もって教科書を読んで授業をうけること。学んだことをその日の中に思い起こすこと。疑問点が残ったら早めに解決すること。なお、三角関数については予習しておくことが望ましい。講義を聞いて興味を持った分野は、少しでもよいので関連する事柄を自分で調べてみることを。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	【生物学】：細胞のつくりとはたらき	細胞の構成要素と、それぞれの担っている役割について説明する。		
	2	遺伝情報とその伝達・発現のしくみ	「遺伝子」について、そのつくりと、生命体の中で実際に働きを持つようになるまでの道筋をみる。		
	3	遺伝情報とその伝達・発現のしくみ	「遺伝子」について、そのつくりと、生命体の中で実際に働きを持つようになるまでの道筋をみる。		
	4	生殖と発生	生物が子孫を残す方法と仕組み、および生物の体が形成される過程をみる。		
	5	生命の維持と調節	生命体の様々な系・器官とその役割について説明する。		
	6	刺激の受容と行動	生命体が外界の情報を受け取り、反応する仕組みについて説明する。		
	7	生命の起源と進化	長い時間の中で移り変わる地球環境の中での、生命の進化の歴史をみる。		
	8	【物理学】：物理のルール	物理で使う数字・文字のルール 物理で使う数学		
	9	力学の基本	速度が変わらない運動 途中で速度が変わる運動		
	10	物体の運動と力	力の表し方と力の式の使い方		
	11	圧力のはたらきと物を回転させるエネルギーと運動量	身のまわりの圧力とその影響、物を回転させる力とつり合いの状態、いろいろなエネルギー エネルギーの保存		
	12	気体の運動	熱の基本的な性質 気体が周囲におよぼす力		
	13	波の性質	波の表し方と2種類の波 波ならではの現象		
	14	音と光の現象	音の性質と音程の変化 波としての光の性質		
	15	オームの法則	電流と電子の流れ オームの法則		

[illegible]

授業科目	実践コミュニケーション		担当教員	青戸 恵利伽	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	医療職におけるコミュニケーションの重要性や医療職に必要とされる、接遇・態度・マナーについてその重要性を理解する。				
到達目標	コミュニケーション手段の種類とその特徴・利用法について理解し、対象者や場面に合わせたコミュニケーションが実践できる。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	40	提出課題と定期試験の合算で評価する。 定期試験で6割以下の場合には、再試験の対象となる。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	60			
	その他	0			
履修上の留意事項	コミュニケーションスキルの問題は必ず誰もがぶつかる壁である。対象者をはじめ他者との関係作りの基本となるものなのでとても重要である。積極的に演習に取り組むこと。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	イントロダクション、対人援助とコミュニケーション①	授業の概要と予定、成績評価、指導と援助		
	2	対人援助とコミュニケーション②、コミュニケーションの分類①	指導と援助、コミュニケーションの語源、分類		
	3	コミュニケーションの分類②、コミュニケーション効果	コミュニケーション効果、メッセージ、挨拶、敬語		
	4	交流分析①	私とは何者か、三つの自我、自我状態の確認、交流パターン分析		
	5	交流分析②	他者からみたエゴグラム、エゴグラム分析		
	6	他者からみた自分	他者から見た自分（フィードバック、ジョハリの窓）、Positive Feedback（ほめる、ほめられる）		
	7	指示・助言・支持①	指示（ブラインドウォーク）		
	8	指示・助言・支持②	助言（助言カード）		
	9	指示・助言・支持③	支持（支持トレーニング）		
	10	傾聴と共感①	アクティブリスニング、受容		
	11	傾聴と共感②	共感		
	12	コミュニケーション技法①	促し、繰り返し、明確化、要約、共感		
	13	コミュニケーション技法②	共感、開かれた質問、解釈		
	14	コミュニケーション技法③、接遇	保証、沈黙、対決、接遇の意味と必要性、尊敬語、謙譲語、丁寧語、実習先への電話がけ、身だしなみマナー		
	15	実践コミュニケーション	これまで学んだコミュニケーションスキルの実践		

[illegible]

授業科目	情報科学Ⅰ		担当教員	赤尾 みどり	
対象年次・学期	1 年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数		時間数
授業目的	この授業は、本校における学習に必要な、情報リテラシーと Microsft Word、Excel、PowerPoint の操作方法を身につけることを目的とする。また、それらを利用して、パソコンを有効活用するための知識と操作法を習得する。				
到達目標	①Word を使ってレポートが作成できる。 ②Excel を使って表や図が作成できる。 ③PowerPoint を使ってスライドが作成できる。 ④情報化社会でのモラルや責任について、自己の考え方を説明できる。				
テキスト・参考図書等	30 時間アカデミック 情報リテラシー Office2024 Windows 11 対応				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50	・各試験の平均点 50% ・提出物 50%		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	50			
	その他	0			
履修上の留意事項	①授業は PC 室で行うので時間までに着席していること。②説明と実習（実習がメイン）③積み重ねの演習が多いので休まずに出席すること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	情報処理の基礎Ⅰ	Windows とインターネットの基礎、クラウド利用の注意（パスワードの管理・フォルダの整理）、ファイルの種類		
	2	情報処理の基礎Ⅱ	生成 A I の活用（ルールとマナー）、S N S の安全な利用（個人情報・著作権・肖像権）		
	3	文書化の基礎Ⅰ	特殊キーの使い方（ファンクションキー、コントロールキーの利用）、ビジネス文書のルール		
	4	文書化の基礎Ⅱ	作表、画像・図形の利用①		
	5	文書化の基礎Ⅲ	作表、画像・図形の利用②		
	6	文章化の活用	総合演習問題		
	7	表計算ソフトの基礎Ⅰ	データ入力とワークシートの編集、オートフィルの活用、四則演算		
	8	表計算ソフトの基礎Ⅱ	関数の基礎（合計・平均）、作表と編集		
	9	表計算ソフトの基礎Ⅲ	グラフ表現の要点とグラフ作成		
	10	表計算ソフトの活用	総合演習問題		
	11	プレゼンテーションソフトの基礎Ⅰ	文字就職と図形の活用、アニメーション効果		
	12	プレゼンテーションソフトの基礎Ⅱ	スライド編集、テーマの設定		
	13	プレゼンテーションソフトの基礎Ⅲ	スライド編集		
	14	プレゼンテーションソフトの活用Ⅰ	資料作成とプレゼンテーションの準備		
	15	プレゼンテーションソフトの活用Ⅱ	総合演習、プレゼンテーション		

[illegible]

授業科目	心理学	担当教員	久原 奈緒子		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必須	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	心理学はどのような学問か、歴史と研究方法、また、環境へ適用していく上で心はどのように役立っているのか、心の仕組みはどのようなになっているのかについて、幅広い心理学の中から代表的なものについて学んでいきます。				
到達目標	心理学の基礎知識、心理学の分類や歴史、脳の働きと心の関係について理解した上で、感覚・知覚・記憶・思考・学習・言語・発達・性格を取り上げ、様々な分野への心理学の応用、人間一般の行動の法則性を修得することを目的とします。				
テキスト・参考図書等	教科書 社会福祉士シリーズ 2 心理学理論と心理的支援 (ISBN978-4-335-61072-1)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	90	定期試験および提出物にて評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	10			
	その他	0			
履修上の留意事項	必ずしも教科書に従って講義を進めるとは限りませんが、事前に一読下さい。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	心理学とは？	心理学の発祥、心理学の領域、他の学問との関連		
	2	性格心理学①	類型論、特性論、構造論、局所論		
	3	性格心理学②	性格の形成要因		
	4	性格心理学③	心理検査、交流分析		
	5	心の病理と健康①	心の健康と発達（フロイト、ユング、ピアジェ）		
	6	心の病理と健康②	防衛機制、愛着		
	7	知覚心理学①	感情と情動、表情と情動、弾性感覚器官、知覚特性		
	8	知覚心理学②	人間のものの見方、見え方、感じ方		
	9	発達臨床心理学①	胎児期、乳児期の発達の特徴		
	10	発達臨床心理学②	児童期、学童期の発達の特徴		
	11	発達臨床心理学③	思春期、青年期の発達の特徴		
	12	発達臨床心理学④	中年期、老年期の発達の特徴		
	13	学習心理学①	レスポナデント条件付け、オペラント条件付け、動機づけ、		
	14	学習心理学②	学習無力感、欲求階層説、IQ		
	15	発達障害と精神疾患、まとめ	各発達障害の特徴と精神疾患の症状について		

授業科目	心理学	担当 教員 実務 経験	久原奈緒子 有：■ 無：□	道内スクールカウンセラーとして 10 年の実務経験あり
対象年次・学期	1 年 ・ 前期	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

授業科目	人間発達学		担当教員	高橋 義信	
対象年次・学期	1 年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数
授業目的	人間の身体や運動、認知がどのように発達するのか理解する。				
到達目標	新生児期から老年期までの各ライフステージの特徴とどのような問題に遭遇するかを理解し、問題を抱えた個人の援助の基礎を会得する。				
テキスト・参考図書等	リハビリテーション医学講座 第2巻 人間発達学				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	定期試験により評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項	人間の身体や運動、認知がどのように発達するのかについて理解することは、人間理解の基本となり、対人援助職には必要不可欠な知識となる。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	人間発達とは	人間発達観の変遷と発達研究法		
	2	発達の一般原理	発達の方向性、臨界期、遺伝率		
	3	身体発達Ⅰ	身体各部の発達の特徴		
	4	身体発達Ⅱ	身体発達の評価法、身体発達に関与する因子		
	5	運動機能の発達Ⅰ	新生児、乳児期の運動発達の特徴		
	6	運動機能の発達Ⅱ	運動機能の発達に影響を及ぼす因子		
	7	感覚の発達	新生児の感覚能力		
	8	知覚の発達	パターン知覚、奥行き知覚、色の知覚の発達		
	9	言語の発達	二歳までの言語発達の道筋、言語障害の原因		
	10	知能の発達	知能検査、知能指数、知能に影響を与える因子		
	11	青年期Ⅰ	青年期の身体的変化		
	12	青年期Ⅱ	青年期の心理的变化と諸問題		
	13	成人期	成人期の身体的変化と成人期の諸問題		
	14	老年期	老化とは、老化に影響を与える因子、老年期の諸問題		
	15	まとめ			

[illegible]

授業科目	人財育成概説		担当教員	柿崎 貴浩	
対象年次・学期	1 年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態	講義		授業回数		時間数
授業目的	・ 本校学生としての基本的な心構えを知る。・ 医療人に必要とされる資質とは何かを諸先輩から話を聞き知る。				
到達目標	・ 社会人として必要な常識や心構え、人間関係を築くための意志伝達スキルを理解する。				
テキスト・参考図書等	配布資料				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	レポート課題により評価する。		
	レポート	100			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項	・ 卒後のイメージを具体化できるよう主体的な姿勢で受講すること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション いま社会（病院・施設）が求めているもの	本校の教育理念、豊かな人間性について		
	2	どのような大人になりたいか			
	3	時代の変化と社会が求めている人財			
	4	キャリアデザインを描く			
	5	人財育成概説			
	6	メディカルフィットネス			
	7	医療現場が求める人財とは			
8	社会人・医療人として大切にすべきこと				

授業科目	人財育成概説	担当 教員 実務 経験	柿崎貴浩 有：■ 無：□	市内精神科デイケアに 10 年、精神科病院に 1 年、老健施設に 1 年勤務
対象年次・学期	1 年・前期	担当 教員	佐伯輝明 有：■ 無：□	株式会社 SHARE 代表取締役、職員の人事採用や事業運営を行う
授業形態	講義	実務 経験		
		担当 教員 実務 経験	伊藤隆 有：■ 無：□	市内医療法人グループ、リハビリテーション統括部長として 20 年以上勤務。作業療法士
		担当 教員 実務 経験	吉田克彦 有：■ 無：□	本校校長として職員の人事採用やマネジメント、学校運営を行う
		担当 教員 実務 経験	大森達也 有：■ 無：□	市内・道内の整形外科病院で理学療法士として 10 年以上、本校理学療法学科教員として 3 年勤務。スポーツクラブ代表取締役社長に從事
		担当 教員 実務 経験	森山さら 有：■ 無：□	キャリアコンサルティング会社勤務。道内の大学等で各種就職ガイダンス・講演に從事
		担当 教員 実務 経験	吉田浩晃 有：■ 無：□	吉田学園総合事務局長として人事採用や職員のマネジメントに從事。理学療法士
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

授業科目	生理学	担当教員	中嶋 俊雄		
対象年次・学期	1 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	45 回	時間数	
授業目的	・人間が生きていくための仕組み「生理学」は、リハビリを学ぶための基礎として極めて重要である。「この仕組みはどのようにすれば回復させることが出来るのだろうか」と考えながら、しっかり学ぶことを目的とする。				
到達目標	・生体におけるホメオスタシスの基本概念および呼吸器・循環器・消化器・生殖器・代謝・内分泌の機能を理解する。 ・神経系は電気信号を用いて情報を伝える。このしくみを学び生体の内外の感覚情報の解析と生体が外界に働きかける運動や行動を理解する。				
テキスト・参考図書等	生理学（標準理学療法作業療法学 専門基礎分野）第 6 版 これならわかる要点生理学 参考書籍：解剖生理学、目で見るからだのメカニズム、生理学				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	筆記試験は前期分（中間試験、前期試験）と後期試験それぞれに合格すること。 ・前期：中間試験＋前期試験 ＝ 120 点以上合格(120 点未満再試験) ・後期：後期試験 ＝ 60 点以上合格（60 点未満再試験） ・再試験は 60 点以上で合格となる		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項	・1 回ごとの積み重ねが大事であるので必ず出席して集中して講義を聞くこと。 ・単なる丸暗記では、臨床においては通用しない。「仕組み」「機序」「作用」を理解するよう心掛けること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	生命現象と人体	オリエンテーション、身体の階層性 生命現象 水 ホメオスターシス		
	2	生命現象と人体	オリエンテーション、身体の階層性 生命現象 水 ホメオスターシス		
	3	生命現象と人体	オリエンテーション、身体の階層性 生命現象 水 ホメオスターシス		
	4	細胞の構造と機能			
	5	細胞の構造と機能			

6	細胞の構造と機能	細胞 体液 細胞の透過性 静止電位 活動電位
7	血液	血液の機能と成分、血球、血漿 生体防御、免疫 骨と骨髄
8	血液	血液の機能と成分、血球、血漿 生体防御、免疫 骨と骨髄
9	血液	血液の機能と成分、血球、血漿 生体防御、免疫 骨と骨髄
10	血液	血液の機能と成分、血球、血漿 生体防御、免疫 骨と骨髄
11	心臓と循環	循環の仕組み、心臓・心機能の調節 心電図、心音、心周期
12	心臓と循環	循環の仕組み、心臓・心機能の調節 心電図、心音、心周期
13	心臓と循環	循環の仕組み、心臓・心機能の調節 心電図、心音、心周期
14	呼吸とガスの運搬	呼吸器、呼吸運動、肺気量 呼吸ガスと血流ガス 呼吸の調節
15	呼吸とガスの運搬	呼吸器、呼吸運動、肺気量 呼吸ガスと血流ガス 呼吸の調節
16	消化と吸収	消化器の機能、消化機能の調節
17	消化と吸収	消化器の機能、消化機能の調節
18	尿の生成と排泄	排泄、腎臓、尿の生成 腎機能の調節、排尿
19	尿の生成と排泄	排泄、腎臓、尿の生成 腎機能の調節、排尿
20	内分泌	ホルモンとは、視床下部－下垂体系、甲状腺 上皮小体、睪臓等
21	内分泌	ホルモンとは、視床下部－下垂体系、甲状腺 上皮小体、睪臓等
22	性と生殖	生殖器、受精と妊娠
23	中枢神経系	中枢神経系の構成、機能 記憶、脳波
24	中枢神経系	中枢神経系の構成、機能 記憶、脳波
25	中枢神経系	中枢神経系の構成、機能 記憶、脳波
26	中枢神経系	中枢神経系の構成、機能 記憶、脳波
27	代謝と体温	エネルギー代謝、栄養素の代謝 体温、発汗
28	代謝と体温	エネルギー代謝、栄養素の代謝 体温、発汗
29	酸塩基平衡	体液の pH、血液の緩衝系、酸－塩基平衡の異常
30	酸塩基平衡	体液の pH、血液の緩衝系、酸－塩基平衡の異常
31	神経 I	神経入門・興奮の成り立ち
32	神経 II	興奮の伝導と伝達
33	神経系	シナプスと神経系
34	末梢神経系	脳神経、脊髄神経、自律神経の機能
35	中枢神経系 I	脊髄の機能
36	中枢神経系 II	脳幹各部位の機能
37	中枢神経系 III	随意運動の調節
38	中枢神経系 IV	大脳皮質の機能
39	感覚 I	感覚入門・受容器の性質
40	感覚 II	感覚各論
41	筋の収縮	筋肉入門・筋収縮の生理学
42	筋の収縮	骨格筋の張力
43	筋の収縮	骨格筋収縮のエネルギー
44	筋の収縮	固有感覚と筋電図
45	筋の収縮	心筋と平滑筋

[illegible]

授業科目	生理学実習		担当教員	竹中 謙将	
対象年次・学期	1 年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	23 回	時間数
授業目的	・生理学の講義で得られた知識を、実習を通してより深く理解する。 ・実習器具や実験装置の取り扱いを知るとともに、できる限り詳細な記録、鋭察を心掛け、より深い分析力、考察力を身に付ける。 ・実験の一連の過程（目的、方法、結果、考察）について、標準的な書式に則って記載する能力を養う。				
到達目標	①生理学の知識を基に、実習を行い、その結果を分析・考察することができる。 ②実習で得られた結果を書式に則って適切に記録・記載をすることができる。				
テキスト・参考図書等	生理学（標準理学療法作業療法学 専門基礎分野）第4版 これならわかる要点生理学				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	各実習の課題点（20%）とレポート評価点（80%）により評価。		
	レポート	80			
	小テスト	0			
	提出物	20			
	その他	0			
履修上の留意事項	レポートでは「実習内容を正確に詳細に記述する」、「文献の丸写しではなく、自らの考えを交えて書く」ことを心掛けること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	実習の目的・進め方、レポートの書き方、実験結果のまとめ方、文献の調べ方、内容要約について、考察の書き方（担当：小熊、武田）		
	2	オリエンテーション	実習の目的・進め方、レポートの書き方、実験結果のまとめ方、文献の調べ方、内容要約について、考察の書き方（担当：小熊、武田）		
	3	オリエンテーション	実習の目的・進め方、レポートの書き方、実験結果のまとめ方、文献の調べ方、内容要約について、考察の書き方（担当：小熊、武田）		
	4	オリエンテーション	実習の目的・進め方、レポートの書き方、実験結果のまとめ方、文献の調べ方、内容要約について、考察の書き方（担当：小熊、武田）		
	5	オリエンテーション	実習の目的・進め方、レポートの書き方、実験結果のまとめ方、文献の調べ方、内容要約について、考察の書き方（担当：小熊、武田）		
	6	実習	筋力測定		
	7	実習	筋力測定		
	8	実習	皮膚感覚		
	9	実習	皮膚感覚		
	10	実習	皮膚感覚		
	11	実習	皮膚感覚		
	12	実習	心電図		
	13	実習	心電図		
	14	実習	心電図		
	15	実習	心電図		
	16	実習	筋電図		
	17	実習	筋電図		

	18	実習	筋電図
	19	実習	筋電図
	20	実習	呼吸機能
	21	実習	呼吸機能
	22	実習	呼吸機能
	23	実習	呼吸機能

授業科目	生理学実習	担当 教員 実務 経験	武田祐貴 有：■ 無：□	市内脳神経外科病院にて理学療法士として 12 年間勤務
対象年次・学期	1 年・後期	担当 教員	小熊真喜子	道内精神科病院にて作業療法士として勤務
授業形態		実務 経験	有：■ 無：□	
		担当 教員 実務 経験	竹中謙将 有：■ 無：□	道内の病院で 10 年、老人保健施設で 5 年、理学療法士として勤務
		担当 教員 実務 経験	和田英峰 有：■ 無：□	道内病院にて作業療法士として 8 年勤務
		担当 教員 実務 経験	元木純 有：■ 無：□	市内整形外科病院にて理学療法士として 18 年間勤務
		担当 教員 実務 経験	横野裕行 有：■ 無：□	道内・外の病院で理学療法士として 8 年勤務
		担当 教員 実務 経験	青戸恵利伽 有：■ 無：□	道内病院・介護保険施設において作業療法士として 5 年勤務
		担当 教員 実務 経験	池田保 有：■ 無：□	道内の病院にて作業療法士として 10 年勤務
		担当 教員 実務 経験	吉田智子 有：■ 無：□	市内整形外科で理学療法士として 10 年以上勤務
		担当 教員 実務 経験	小野直也 有：■ 無：□	市内回復期病院で理学療法士として 5 年間勤務
		担当 教員 実務 経験		

授業科目	哲学		担当教員	尾形 敬次		
対象年次・学期	1 年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態			授業回数	8 回	時間数	15 時間
授業目的	医療者は医療技術者である一方、医療技術の開発者、つまり医学の研究者でもある。無論、この研究は科学一般のパラダイムに従って、つまり科学研究の前提となる態度と方法に従って行われなければならない。また、一般に科学理論に従うことが、誤った治療方法に陥らないための条件でもある。見方を変えると、これに従わなかったため治療成果が挙げられない場合、医療者に弁明の余地はなく、医療者個人が責任を取らなければならない。上のような背景事情を前提にしつつ、講義という形態の中に随時演習を取り入れ、それによって学生が科学の理解を深め、その思考態度を確立するのがこの講義の目的・目標である。					
到達目標	科学的思考態度の習得は中等教育の目標でもあり、そこにおける学生の習熟度に応じて講義の中での演習を行う。したがって授業は随時提出される演習課題への学生の解答をフィードバックさせて行われる。この講義は科学哲学の講義であり、学生が科学者としての態度を身につけることを目標とする。つまり、知識の蓄積ではなく、知識を作り出すための態度の形成が目標である。					
テキスト・参考図書等	特に指定なし					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	50	授業時間内に行う問いの解答の成績と、学期末の筆記試験を総合して評価する。			
	レポート	0				
	小テスト	0				
	提出物	50				
	その他	0				
履修上の留意事項	知識の集積ではなく、むしろ態度の習得が目標なので、習得すべき個々の学習内容はあらかじめシラバスで提示できるが、時間ごとの講義内容を前もって明示することはできない。下のコマ数は目安に過ぎず、講義はおおむね以下の順序で行われるが、必要に応じて随時、テーマを遡ることがある。科学活動は職業上、自分たちに直接関与してくる。その自覚をもって授業に臨んでほしい。					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容			
	1	科学とは何か	西洋文化としての科学			
	2	科学と非科学	哲学と科学、宗教と科学、科学とエッセイ科学			
	3	近代科学の形成	科学革命と近代科学のパラダイム			
	4	近代科学の形成	科学革命と近代科学のパラダイム			
	5	近代科学のパラダイムと相容れない科学	19 世紀後半以降の科学の成果。無意識、進化、量子			
	6	科学的探究の方法	実験と観察、帰納と演繹、仮説演繹法と反証可能性			
	7	科学的探究の限界	神経ダーウィニズムとセンス・データの限界			
	8	科学の新たなパラダイム	自己組織化、オートポイエーシス等の仮説			

[illegible]

授業科目	表現論		担当教員	山田 里見	
対象年次・学期	1 年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数
授業目的	医療職を目指す学生が、専門科目の教科書や資料を「正確に読み解く」ための基礎体力を養い、実習レポートや国家試験の基礎となる「論理的なアウトプット」ができる土台を形成する。相手に伝えるためのプレゼンテーション技法を学ぶ。実習にむけた様々な課題の取り組み方法を知る。				
到達目標	教科書や資料から必要な情報を正確に抽出し、根拠に基づいた論理的なアウトプットができる。プレゼンテーションに必要な基本的事項について表現技法を習得する。臨床実習に向け、実習日誌・メモ・お礼状などの作成ポイントを列挙できる。				
テキスト・参考図書等	1～3 回目は「標準生理学」の教科書を使用します。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	前期、後期ともに提出物の提出状況と内容にて評価する。 前期・後期の総合点をもって評定を決定する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	100			
	その他	0			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	正確な情報収集と模写	索引、目次、序文の使い分けを学ぶ。「写す」作業が医療安全（ミス防止）に直結することを理解する。索引から用語を特定し、解剖学・生理学の専門用語を「ハネ・ハライ」まで正確に書き写す。		
	2	文構造の解体（主語・述語）	スラッシュ（／）で意味を区切る方法と、文末から逆算して主語を見つける「主述ペア」の法則を学ぶ。複雑な医療文章にスラッシュを入れ、主語を○、述語に下線を引く。核心を 20 字で要約する。		
	3	論理的関係の把握（接続詞）	代表的な接続詞の役割（だから、しかし、つまり等）を学ぶ。専門用語を日常語へ「言い換える」コツを理解する。適切な接続詞を選択して文を完成させる。難しい言葉を「つまり～」を使って中学生でもわかるように翻訳する。		
	4	数値データの言語化	グラフを見る際の「視線の順序」を学ぶ。変化を「急激に」「緩やかに」などの言葉で表現する手法を知る。バイタルサインの変化グラフから数値を読み取り、何が起きているかを文章で説明する。		
	5	事実と主観の区別（PREP 法）	事実（客観）と意見（主観）を仕分ける。説得力のある文章の型「PREP 法」を習得する。提示されたデータをもとに、PREP 法を用いて「意見文」を作成する。型をもとに、「感想文」を作成する。		
	6	情報の統合と表出（総まとめ）	全 5 回のスキルの再確認。「主述のねじれ」などの陥りやすいミスの注意喚起。「学習・睡眠時間と成績の関係」を題材に、読解・分析・記述のすべてを行う。赤ペンで自分の読み解きのミスを修正し、6 回全体の成長を振り返る。		
	7	わかりやすい発表（1）	プレゼンテーションの方法、スライドと読み原稿の作成 情報収集と比較読み		
	8	わかりやすい発表（2）	スライドの作成と修正 発表や聴講のポイント		
	9	わかりやすい発表（3）	プレゼンテーションを実施 聴講体験 フィードバックを受ける		
	10	実習直前講座（1） お礼状	臨床実習の目的と学習の流れについて理解する。お礼状の目的、書き方や内容について学ぶ。		
	11	実習直前講座（2） メモ	メモの取り方や項目について学ぶ。		

	12	実習直前講座 (3) 観察 場面の記録	観察場面記録の書き方について学ぶ。
	13	実習直前講座 (4) 実習日 誌	実習日誌の書き方について学ぶ。
	14	実習直前講座 (5) 学生 紹介書	学生紹介書の目的、書き方や内容について学ぶ。
	15	実習直前講座 (6) 口頭報 告	書き言葉と話し言葉、挨拶の仕方や敬語の使い方について 学ぶ。

[illegible]

授業科目	病理学概論		担当教員	安彦 善裕	
対象年次・学期	1 年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数 30 時間
授業目的	病理学は、病気の成り立ちを探究する学問であり、医療従事者にとって不可欠な学問である。生理学などで学習した正常な細胞、組織、器官の形態が病気によってどのように変化するか、または、正常な生体機能が障害された場合、どのような病態に進展するかを学習する。				
到達目標	1.病理学とは何かについて、病理診断の意義について説明できる。 2.各疾患の病因、病態について説明できる。				
テキスト・参考図書等	教科書：医療系学生のための病理学 第5版（講談社） 参考書：病気の地図帳（講談社）、遺伝子の地図帳（西村書店）、ルービン 「カラー 基本病理学」（訳本）（西村書店）				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	試験で 60%未満の者には再試験を行う。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物				
	その他	0			
履修上の留意事項	・指定した教科書を事前に読んでおくこと。 ・病理学を学び、理解するには解剖学および生理学の知識が必須である。病因・病態を理解し易くするために、解剖学および生理学について復習し、整理・理解しておくこと。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	病気と病理学	病理学とは何か、病理診断の意義、治療時における病理学の必要性、病気の発症		
	2	細胞の異常－病気の本態	細胞の構造と細胞障害、正常細胞の新陳代謝、再生と修復、ヒトの体の多層構造		
	3	循環障害	循環器系の働き、循環障害、循環障害によって発症する主な疾患と病態		
	4	代謝異常①	代謝とは何か、代謝異常、糖代謝と糖代謝異常、脂質代謝と脂質代謝異常		
	5	代謝異常②	核酸代謝と核酸代謝異常、タンパク代謝とタンパク代謝異常、カルシウム代謝とカルシウム代謝異常、代謝障害によって発症する主な疾患		
	6	先天異常	遺伝とは何か、先天異常とは、遺伝要因、環境要因		
	7	老化	老化とは何か、細胞の老化と個体の老化、老化に伴う各臓器の変化、老化により発生する疾患		
	8	炎症①	炎症の正体、炎症とはどのように起こるのか		
	9	炎症②	炎症の分類		
	10	炎症③	炎症の全身反応		
	11	免疫と免疫異常①	免疫機構、アレルギー、自己免疫疾患		
	12	免疫と免疫異常②	免疫不全症、移植免疫、免疫および免疫異常によって発症する主な疾患		
	13	腫瘍①	癌とは何か、腫瘍の分類、癌の特性		
	14	腫瘍②	腫瘍マーカーと癌の診断、癌の治療		
	15	統括	これまでの講義内容の統括		

[illegible]

授業科目	臨床見学実習		担当教員	池田 保	
対象年次・学期	1 年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	0 回	時間数 45 時間
授業目的	臨床実習における一連の作業療法を見学・観察し、作業療法及び作業療法士を果たす役割を学ぶ。 作業療法士としての心構え、医療専門職としての自覚を形成する。				
到達目標	作業療法部門、作業療法士の役割、関連職種の役割・業務、施設の機構及び業務について理解する。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	臨床教育者の評価（40％）と作業療法学科教員の評価（60％）を合わせて総合的に評価し、60％以上を合格とする。ただし、実習期間での学生評価の項目にて D 以下の判定が 6 個以上（全体の 25％以上）の場合は不合格と判断される。 評価項目（実習施設） 1.臨床見学実習内容の評価 2.作業療法士としての資質・適性の評価 評価項目（学校） 1.実習前セミナー評価点 2.課題点 3.サマリー発表会		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	100			
履修上の留意事項	実際の作業療法士の業務を見学し、今後の学習へのモチベーションへとつなげるとともに、実習を通して自己の学習課題を明確にしてください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	【1 回】 実習前評価	各実習施設に赴き臨床教育者の監視下・指示のもと、臨床場面の見学、対象者とのコミュニケーション等を通して学ぶ。		
	2	【2～22 回】 臨床実習	実習施設における一連の作業療法を見学・観察し、作業療法及び作業療法士の果たす役割を学ぶ機会とする。		
	3	【23 回】 サマリー報告会	実習における教育成果の判定にはサマリー発表の内容や提出物について確認し、臨床教育者評価と教員評価とを合わせて総合的に判定する。		

授業科目	臨床見学実習	担当 教員 実務 経験	柿崎 貴浩 有：■ 無：□	市内精神科デイケアに 10 年、精神科病院に 1 年、老健施設に 1 年作業療法士として勤務
対象年次・学期	1 年・後期	担当 教員 実務 経験	目黒 文彦 有：■ 無：□	道内病院にて作業療法士として 14 年勤務
授業形態				
		担当 教員 実務 経験	和田 英峰 有：■ 無：□	道内病院にて作業療法士として 8 年勤務
		担当 教員 実務 経験	山田 里見 有：■ 無：□	道内病院にて作業療法士として 6 年勤務
		担当 教員 実務 経験	池田 保 有：■ 無：□	道内病院にて作業療法士として 10 年勤務
		担当 教員 実務 経験	小熊 真喜子 有：■ 無：□	道内病院にて作業療法士として勤務
		担当 教員 実務 経験	青戸恵利伽 有：■ 無：□	市内病院・介護保険施設にて作業療法士として 5 年勤務
		担当 教員 実務 経験	臨床実習教育者 有：■ 無：□	
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

授業科目	作業療法評価法		担当教員	目黒 文彦	
対象年次・学期	1 年・後期		必修・選択区分	必須	単位数
授業形態			授業回数	30 回	時間数 60 時間
授業目的	作業療法における「評価」の重要性を理解する。				
到達目標	評価技法の基本を習得し、対象者理解の基礎を身につける。 バイタルチェックと基本的リスク管理、主要関節の関節可動域測定、基礎的な面接・作業観察が行える。				
テキスト・参考図書等	標準作業療法学 作業療法評価学、新・徒手筋力検査法 第 10 版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70	筆記試験と実技試験の得点を合算（筆記試験 70％、実技試験 30％）して最終成績とする。 筆記試験は、100 点満点中 60 点以上を合格とし、本試験で 60 点に満たないものは再試験にて 60 点以上を合格とする。 実技試験についても 100 点満点中 60 点以上を合格とし、本試験で 60 点に満たない場合は再試験を受験し、60 点以上で合格とする。 筆記試験・実技試験共に合格に達しない場合は、本試験の得点をもって最終成績とする。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	30			
履修上の留意事項	実技を多く含む科目です。基礎的な項目とはいえ、実技試験も実施されますので、授業後の復習、反復実技練習は必要になります。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	評価法概論	オリエンテーション。評価とは何かを理解する		
	2	評価法概論	作業療法評価結果の記録方法、SOAP の使い方を知る		
	3	バイタルサイン①	バイタルサインとは何かを理解する		
	4	バイタルサイン②	バイタルサインの評価技術を学び、脈拍測定の意味合いを理解する		
	5	バイタルサイン③	バイタルサインの評価技術を学び、脈拍測定の実施が可能になる		
	6	バイタルサイン④	バイタルサインの評価技術を学び、血圧の実施が可能になる		
	7	バイタルサイン⑤	バイタルサインの評価技術を学び、血圧の実施が可能になる		
	8	バイタルサイン⑥	意識状態の評価基準を理解する		
	9	バイタルサイン⑦	バイタルサインとリスク管理の関連性を理解する		
	10	バイタルサイン⑧	バイタルサインの臨床上の活用事例を学ぶ		
	11	面接・作業面接	面接の種類・接近と挨拶、パーソナルスペースについて理解する		
	12	作業面接	構成的面接練習、面接の導入と情報収集面接、作業を介した面接を理解する。		
	13	作業面接・作業観察	子ども・車椅子患者と面接する場面での注意点と方法を理解する。 観察の種類を理解する。		
	14	作業面接・作業観察	車いす利用者との情報収集面接の流れ（実習前実技試験課題を中心に）		
	15	作業観察	観察の種類 観察における評価の特徴 観察の記録		
	16	作業観察	第一印象の捉え方・まとめ方を理解する。		
	17	関節可動域測定（ROM－T）	関節可動域測定の目的を理解する。		
18	関節可動域測定（ROM－T）上肢①	関節可動域測定の基本的な測定技術を習得する。			

	19	関節可動域測定（ROM－T）上肢②	関節可動域測定の基本的な測定技術を習得する。
	20	関節可動域測定（ROM－T）上肢③	関節可動域測定の基本的な測定技術を習得する。
	21	関節可動域測定（ROM－T）上肢④	関節可動域測定の基本的な測定技術を習得する。
	22	関節可動域測定（ROM－T）上肢⑤	関節可動域測定の基本的な測定技術を習得する。
	23	関節可動域測定（ROM－T）下肢①	関節可動域測定の基本的な測定技術を習得する。
	24	関節可動域測定（ROM－T）下肢②	関節可動域測定の基本的な測定技術を習得する。
	25	関節可動域測定（ROM－T）下肢③	関節可動域測定の基本的な測定技術を習得する。
	26	関節可動域測定（ROM－T）下肢④	関節可動域測定の基本的な測定技術を習得する。
	27	関節可動域測定（ROM－T）下肢⑤	関節可動域測定の基本的な測定技術を習得する。
	28	関節可動域測定（ROM－T）総まとめ	関節可動域測定の基本的な測定技術を習得する。
	29	筋力①	筋力や筋持久力とは何かを知り、姿勢保持や運動に際しての筋力の必要性を理解する 筋の収縮様式と実際の身体運動を関連付けられる
	30	筋力②	徒手筋力検査の基本的な考え方を理解する。 徒手筋力検査の各段階を説明できる。

[illegible]

授業科目	身体障害作業治療学概論		担当教員	青戸 恵利伽	
対象年次・学期	1 年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数
授業目的	身体障害領域における各種疾患を理解するために、骨学や筋学、神経系の解剖生理学を中心に復習を行う。 また脳血管障害を中心とした各種疾患の概要を学び、臨床実習に役立てることができる。				
到達目標	基本的な骨、筋の名称や位置および中枢神経系の機能を説明出来る。 身体障害領域における各種疾患の基礎を学び、病態や症状を説明出来る。				
テキスト・参考図書等	からだが見える 人体の構造と機能、基礎運動学（第7版 補訂） 病気が見える Vol. 7 脳・神経 第2版 作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト身体障害作業療法学（改訂第2版）				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	筆記試験において、100 点満点中 60 点以上を合格とし、本試験で 60 点に満たないものは再試験にて 60 点以上を合格とする。		
	レポート				
	小テスト				
	提出物				
	その他				
履修上の留意事項	身体障害分野の作業療法の基礎を勉強していきます。 この科目の内容は2年生の身体障害作業治療学に繋がりますので、積み残しのないようにしっかり勉強してください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	骨・筋学①	オリエンテーション、骨の名称および付着する筋についての復習		
	2	骨・筋学②	骨の名称および付着する筋についての復習		
	3	骨・筋学③	骨の名称および付着する筋についての復習		
	4	中枢神経の解剖生理①	中枢神経系の解剖および機能について理解する		
	5	中枢神経の解剖生理②	中枢神経系の解剖および機能について理解する		
	6	中枢神経の解剖生理③	中枢神経系の解剖および機能について理解する		
	7	中枢神経の解剖生理④	中枢神経系の解剖および機能について理解する		
	8	脳と運動・感覚①	運動と感覚の仕組みを理解する		
	9	脳と運動・感覚②	運動と感覚の仕組みを理解する		
	10	脳血管障害①	脳血管障害の概要および脳出血、脳梗塞の病態を理解する		
	11	脳血管障害②	脳血管障害特有の症候について理解する		
	12	脳血管障害③	脳血管障害特有の症候について理解する		
	13	身体障がい疾患論①	パーキンソン病の病態・症状について理解する		
	14	身体障がい疾患論②	脊髄損傷の病態・症状について理解する		
	15	身体障がい疾患論③	上肢骨折の病態・症状について理解する		

[illegible]

授業科目	精神障害作業治療学概論		担当教員	小熊 真喜子	
対象年次・学期	1 年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態	講義・演習		授業回数	15 回	時間数 30 時間
授業目的	リハビリテーション心理学の意義と役割を理解する。 精神障がい者に対するリハビリテーションの概要を理解する。 精神障がい者に対する作業療法の意義と役割を列挙できる。 精神障害者や精神科医療についての歴史の概要と現状を理解する。				
到達目標	リハビリテーション心理学の意義と役割を理解する。 精神障がい者に対するリハビリテーションの概要を理解する。 精神障がい者に対する作業療法の意義と役割を列挙できる。 精神障害者や精神科医療についての歴史の概要と現状を理解する。				
テキスト・参考図書等	ゴールド・マスター・テキスト精神障害作業療法学.メディカルビュー 標準理学療法学作業療法学 精神医学 第4版 増補版.医学書院				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	75	後期期末テストを実施する。 授業内提出物として授業のまとめを配布するので、授業終了時に提出する。 授業欠席時も、各自で授業内容を復習し授業のまとめを作成し提出する。 授業前・後半の二回、小テスト（単元テスト）を授業内で実施する。 提出物・小テストの提出遅れ・未提出は減点となる。		
	レポート				
	小テスト	10			
	提出物	15			
	その他				
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション・心理的リハビリテーション（1）	授業予定（シラバス）と講義内容のオリエンテーション 心理的リハビリテーションとは		
	2	心理的リハビリテーション（2）	心理・精神・知的機能の特徴を捉える		
	3	精神疾患と精神障害（1）	精神症状・精神疾患・精神障害について		
	4	精神疾患と精神障害（2）	精神症状（陽性症状・陰性症状）と精神障害の理解・入院医療と外来治療・地域支援の役割		
	5	精神障害者の歴史	精神障害者の処遇と治療・精神科リハビリテーションの発展		
	6	精神科作業療法概論（1） 作業療法士の業務	精神科分野の作業療法士の業務・1日の流れ		
	7	精神科作業療法概論（2） 精神科サービスの種類と特徴	医療・保健・福祉・就労サービスと作業療法士の働き		
	8	まとめ（1）	授業前半の振り返り・ポイントの整理 単元テスト（1）の実施		
	9	精神科作業療法概論（3） 回復過程	回復過程とは？回復過程に合わせた援助		
	10	精神科作業療法概論（4） 治療構造と構成要素①	治療構造と構成要素 治療的自己の利用～作業の利用		
	11	精神科作業療法概論（5） 治療構造と構成要素②	集団・場所と場・時間と頻度の利用		
	12	精神科作業療法概論（6） 精神科作業療法の流れ	事例を通じた作業療法の展開を知る・教科書で調べながら事例を理解する		
	13	精神科作業療法概論（7） 精神科リハビリテーションの流れ	事例を通じた受診支援と治療、就労支援 多職種連携		
	14	精神科作業療法概論（8） 治療理論	治療理論とは 精神分野で用いられる代表的な治療理論		
	15	まとめ（2）	授業後半の振り返り・ポイントの整理 単元テスト（2）の実施		

[illegible]

授業科目	発達障害作業治療学概論		担当教員	和田 英峰	
対象年次・学期	1 年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数 30 時間
授業目的	正常発達の流れを捉えることができる。 発達障害分野作業療法の対象・役割について理解できる。				
到達目標	正常発達理論を列挙できる。 0 か月～1 2 か月までの運動発達を説明できる。 発達障害作業療法の概要を説明できる。				
テキスト・ 参考図書等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 発達過程作業療法学第 3 版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	筆記試験において、100 点満点中 60 点以上を合格とし、本試験 で 60 点に満たないものは再試験にて 60 点以上を合格とする。		
	レポート				
	小テスト				
	提出物				
	その他				
履修上の 留意事項					
履修主題・ 履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	授業オリエンテーション、発達障害および作業療法の対象 と役割		
	2	原始反射と姿勢反射 (1)	正常発達を学ぶ意義と発達を捉える視点 (原始反射を中心 に)		
	3	原始反射と姿勢反射 (2)	原始反射と姿勢反射を整理する		
	4	原始反射と姿勢反射 (3)	原始反射と姿勢反射についての確認		
	5	粗大運動発達 (1)	0～12 か月までの発達の概要		
	6	粗大運動発達 (2)	背臥位の発達		
	7	粗大運動発達 (3)	腹臥位の発達		
	8	粗大運動発達 (4)	座位の発達		
	9	粗大運動発達 (5)	立位の発達		
	10	言語・認知機能の発達	乳幼児期の言語や言語理解と認知機能の発達について		
	11	遊び・社会性の発達	乳幼児期の遊びや基本習慣・対人関係の発達について		
	12	運動発達と発達理論①	乳幼児期の微細運動 (手指) の発達 主な発達理論 (ゲゼル・ピアジェ・エリクソン・マズロ ー)		
	13	発達理論②	発達検査 (遠城寺式乳幼児分析的発達検査、日本式デンバ ー発達スクリーニング検査)		
	14	保育園見学	幼児の活動場面を見学し、正常発達についての理解を深め る		
	15	保育園見学	幼児の活動場面を見学し、正常発達についての理解を深め る		

[illegible]